

## 令和元年度 勝山市男女共同参画審議会 議事録

日時：令和元年10月2日（水）19:00～21:00

場所：教育会館3階 第5研修室

出席委員：宇野会長、栗原副会長、北川委員、斎藤委員、重松委員、島田委員、  
田中委員、塚本委員、土谷委員、中村委員、藤井委員、松岡委員、  
山内委員、西澤委員

事務局：谷内、辻、坂下、前田

### 1. 開会

### 2. 議題

(1) 第2次勝山市男女共同参画基本計画基本目標にかかる平成30年度の取組結果について

基本目標 人権を尊重した男女共同参画社会の実現

#### 事務局

講演会、研修会を開催しているが、こういった内容、活動なら人が来ていただけるのか意見をいただきたい。

#### 栗原委員

福井市でやっている講座だが、祖父と孫でのキャッチボール等の「孫育て」講座が充実している。夫婦共働きで子育てをあまりしてこなかった世代の祖父母と孫の講座はどうか。孫を育てる際の、世代によって変わったことを講座にしているものもあり、人気が高いと聞いている。

手遊び等の素朴なものや、クリスマスにはパン職人によるインスタ映えするようなシュークリームタワーを作る講座も福井市の男女共同参画講座では実施されている。

祖父母も産休育休をとれる制度があり、祖父母向けの講座が開かれている。そのほかにも、芸術作品の見方をレクチャーしてくれる方を講師に招き、一緒に芸術を楽しむような講座も父子を対象に開催されている。勝山では恐竜博物館も利用できると思う。

また、祖父母に子どもを預けるのに今の常識を知っておいてほしい、という要望もある。例えば飽をあげないでほしい、抱き癖がつくから抱いてはダメだと言われていたが、今は抱いた方がいいなど、そういったギャップについて保健師を招いて講座を開いている。別の自治体では、子育てのギャップに関連したパンフレットを

作成しているところもある。

藤井委員

福井市や大野市などのそういった情報は、行政同士で簡単に手に入るものなのか。

事務局

こちらがその情報を収集すれば可能。

藤井委員

そういった情報は頼めばもらえると思うため、年に何回か行政同士、あるいは市民もいれて情報交換会の開催を検討してはどうか。

事務局

ご意見を参考にしたい。

宇野委員

今までの意見を聞いていて、「新語」というのは人間が興味をもつ部分だと思うが、「孫育て」という言葉は今日初めて聞いた。世の中にない「新語」は商品戦略等でも非常によいため、参考になる意見だと感じた。

事務局

祖父母が働いていても、孫をみるために育休がとれるのか。

粟原委員

補助が出ていて、休みがとれるように聞いている。保育所の申請書にも、祖父母の欄があったように思う。

塚本委員

確か県の制度だった。

粟原委員

既存の教室でもジビエや中国茶といった面白いものはあると思う。

事務局

公民館の講座では集落単位ではなかなか人が集まりにくいいため、キャッチ などのや料理系の講座が多い傾向にある。

粟原委員

熟れずしも習ってみたいが、教えてくれる福井の方がいないので、子どもや夫婦で参加できるのはいいと思う。

事務局

昔から公民館の事業で、世代間交流事業というものがある。歳が離れた祖父母世代が孫世代に色々なことを教えるというような事業で以前からあるが、今の時代でもっと面白いことができるといいと思っている。

塚本委員

先ほどの「新語」に関連して福井県では、「共家事(ともかじ)」を流行らせよ

うとしている。

宇野委員

福井県では未来戦略をたてている最中で、新聞や広報でも聞いたことがないような言葉が結構でてきている。

そのほか、「こういった教室をすると面白いのではないか」といった意見はないか。

事務局

料理教室等が多くなるため、女性が多くなってしまう傾向にある。もっと男性に出てきて欲しいという思いはある。男性が出てくる講座はそば等に集中してしまう。「男の料理教室」ということで、限定して開催している例もあり、人気があるとは聞いている。

粟原委員

「空き缶でご飯を炊く」「缶詰の油で火を灯す」「カップ麺に緑茶を入れて食べる」といったサバイバルクッキングを父親とする、という講座はどうか。また、防災グッズで買ってあったものを利用して、父親と賞味期限が近いものを持ち寄り、簡単に美味しい料理を作る、ようなものであれば、自分の夫にも参加してほしいと思う。キャンプ等のノウハウも得ることができ、自宅の不用品の利用や防災教育の効果もあるため、最近流行っていると聞いたことがある。今は備蓄食料で期限切れ間近なものを、どうやって美味しく料理するか、という料理家もいる。

宇野委員

宇宙食教室なども面白いのではないか。AOSSA で以前イベントをやっていた際に宇宙食を買ったが、これもおいしくない。おいしくないが普段体験できないもののため、価値があるように思う。

田中委員

防災関係の話が出たが、今回の千葉のように「2～3週間電気が使えない場合、どうするのか」という形で、他人をあてにせず、自分でいかにやっていくのか、という講座も面白いと思う。例えば、「火を起こすにはどうしたらよいのか」、「水をなるべく使わずに食事をつくる」、「ビニール袋に入れてご飯をたく」など、本もでているためできるように思う。「食器はどうするのか」「冬なら寒さ対策はどうしたらよいのか」など起こりうる現実的な講座をするといい。

事務局

現在各地区で自主防災組織をつくり、各地区で訓練も行っているが、マンネリ化してきている。市長も、「実際こういったことがおこった時のシミュレーションをきちんとやっておく」というように言っている。「食料がない場合どう調達したらよいか」など、料理も含めて、今自分の身を守るための具体的なことを子どもと一緒にやっていくことで、「地区で自分の身は自分で守る」という意識と同時に結束力も高まっていくと思う。

北川委員

防災の話が出たが、春に大野市でイベントがあった。若いファミリーを対象として、家族全員参加の防災に関するイベントで、ミッション(お皿をつくる、時計をつくる)が与えられ、それをクリアしていくオリエンテーション的なものだった。具体的に聞いて市や公民館での講座として反映してはどうか。

事務局

テントで一泊するものだった。キャンプをしながら野宿生活をするようなもの。災害の現場では、全員で協力していかなくてはいけない。今関心の高い防災の事も含めて、男女共同参画にもつながるものを、防災担当ともあわせて考えていく。

基本目標 すべての人で支え合う社会の実現

田中委員

前回、市議会の傍聴の呼びかけについて広報に載せるよう言ったところ、1回だけ載っていた。それで終わり。大野市は必ず広報に載っている。インターネットに掲載している、というがそれでは見ない。もっと呼びかけを行っていけば市は変わっていくと思う。お互いに緊張感を持てるし、もっと呼びかけを実施してほしい。

事務局

今回の議会では議員が変わったこともあり、一般質問に大勢の方がお越しかった。一般質問は2日間開催されたが、パッとみて来場者の半数以上が女性の時間帯もあった。

田中委員

また、一般質問の日は教育会館にいたが、本庁舎では全館流れていたが、教育会館では印刷室かどこかのスピーカーからしか放送が流れていなかったことが気になった。

宇野委員

FAXで流すなどのプレス発表は全課で行っていることなのか。ことあるごとに実施した方がいい。携帯の保有率を調べたことがあるが、奥越ではまだまだ新聞の購読率の方が高い。都会では携帯電話でニュースを見る方も多いが、奥越では新聞購読が必須であり、プレスを有効に使うというのもアイデアだと思う。

事務局

月1回の定例記者会見で大きい行事やイベントを出し、細かいものは投げ込みを行っている。メディアに取り扱ってもらえるよう、工夫して出していく。

#### 事務局

基本目標 2 の中で、審議会等の委員や区長に女性が参画していけばいいのか、という点について、会議の時間も含めて女性が出やすいものとなっているのか等をご審議いただきたい。審議会ではどうしても団体が集まって出ているため、その団体が男性ばかりだと男性が多くなってしまふ。

#### 藤井委員

以前の審議会でも話に上がっていたが、審議会の基本的な構成を見直す必要があるのではないか。各種団体に依頼しては、ベースが男性のため難しい。色々な立場の色々な意見が混ざっているからこそ審議会の値打ちがある。会長ばかり集めるよりも、思い切ってやった方がいい。

#### 事務局

会議の開催時間はどうか。男女共同ネットワークでは午後 7 時 30 分で実施している。家事等を済ませていると午後 7 時では出にくいという意見も聞いており、配慮が必要とも思うがどうか。

#### 粟原委員

質問だが、資料 12 ページの食育推進会議委員では女性登用率が 50% を超えているが、この会議は昼に開催されているのか。

#### 事務局

食育推進会議委員は、調理員が参画しているのもあり女性が多くなっている。会議の開催時間は日中が多い。

#### 粟原委員

夜の会議であれば、週に 1・2 回ではなく、月に 1 回や数か月に 1 回であれば夜でも問題ないかと思う。

#### 北川委員

結局は男性も女性も意識改革だと思う。女性が家事等を家族に任せて出てくるということは、家族の理解が得られないいけない。お互いに意識改革を行わないと現状のまま変わらないだろう。変えるためにはそれぞれの価値観もあるが、現在審議会等に出てきている人が「意外と楽しい」というようなプラスの声掛けをしていくのも一つの手なのではないか。次の委員を紹介する際には、女性を紹介できる雰囲気のある場であってほしい。

#### 粟原委員

「最低何人出してほしい」というやり方は抵抗感があり、嫌々出てくる感があるので、プラス思考の選出方法を考えてほしい。

#### 北川委員

「審議会」という名称が固いのもかもしれない。体育協会がスポーツ協会に名称を変えたように、名称を変えるのもいいのではないか。

粟原委員

学校でも、「土木」では女性が入学してこなかったが、「環境」に変えたとたんに女性が増加した話もある。

事務局

公民館で夜に開催している趣味の講座では女性も多く参加している。審議会自体のイメージを、「女性でも誰でも意見ができる」という雰囲気をもっていけるといいと思う。

粟原委員

祖父母世代では、「審議会等へは女性が出ていくものじゃない」という考え方もかもしれない。

## 基本目標 ゆとりある生活ができる社会の実現

宇野委員

今のように市から特に審議して欲しい点はないか。男女共同参画というテーマでは難しすぎるためその方が話しやすい。

事務局

基本目標3では福祉の関係が多く直接関わるものは少ないが、資料22ページの50番について、男女共同参画月間にあわせたパネル展示や小中学生のポスターコンクールを実施しているが、意識を変えるためにはやはり啓発が中心になるため、このほかで取り組むといいことや、面白い事例があれば教えていただきたい。

西澤委員

学校子どもたちに選挙などのポスターは意外に描きやすいが、男女共同参画のポスターはなかなか難しく、「父親が料理しているところ」等のかかなりありきたりなものになってしまう。できれば標語のようなものを取り入れてみてはどうか。言葉の方が考えやすい。名目が“男女共同参画”のポスターというのは描きにくい。現在は担任があれこれ案を出したり、インターネットで調べた項目を出してから夏休みに入っている。

松岡委員

子ども達の世界でも男女共同参画はあるするはずで、大人の世界にもってくる必要はあるのか。現在の生徒会の実態等はどうなっているのか。今年の生徒会長が男だったから次は女、というように1年おきに交代していたりするのか。そういう身近な男女共同参画のポスターを作ったほうがいいのではないか。

西澤委員

実態としては進んでいる。今年の中部中学校の学校祭と体育祭にも行ったが、応援団長で女性が出ていたり、成器西小学校でも女の子が応援団長をした組が1色あり、それは立候補した子がどれだけ票を獲得できたかであり、男女関係なく

なれる。

松岡委員

その世界こそ男女共同参画であり、その時だけではなく10年間追いかけてみるとか、最近ずっと女の子であってもそれはそれで機会は均等なのだからいい。どうしても一緒になるのが男女共同参画ではない。機会があり参画できる状況であればいい。

西澤委員

高学年の子は保健でもジェンダー等を習っており、色々描くものはあるため、“男女共同参画”でどれを描けばいいのかが、あまりに幅広いため分かりにくくなっている。

松岡委員

学校生活における男女共同参画のあり方など身近なテーマというのはどうか。

西澤委員

出席簿は男女バラバラで、体重測定も体操服を着て行うため皆一緒に実施している。

松岡委員

あらゆる組織で完璧な組織はない。さらに素晴らしい学校に改善をしていけばいいと思う。子どもに大人の世界のことを考えさせるのがいいのか、自分たちの身近なことでさらに男女共同参画を考えさせた方がいいのか。学校ではいじめも含めて様々な問題があると聞いている。そういったことも含めて子ども達に身近なテーマで男女共同参画を考えてもらうといいのではないか。

島田委員

ポスターの審査を2・3年しており、段々件数が増えているなど感じている。学校名など全部伏せて見るが、学年ごとに並んでいるのを見ると、先生が指導されているのだなど感じる。職業に男女差がないことを描く子もいれば、家庭内で父親と母親の役割が別々だと描く子もいる。そういう風に指導されているのだと素人ながら感じた。

松岡委員

具体的にどのような作品が出てくるのか。

島田委員

明らかに父親と分かる人がエプロンをして料理している作品など。子ども達なりに考えている。

事務局

ポスター募集の際にチラシを配る。男女共同参画というテーマではやはり難しいため、例えば「クラスで男の子も女の子も仲良くしているよ」という内容でいいよ、というようにコメントを添えている。低学年だと標語も入れなくていいようにしている。

宇野委員

心の俳句、のようなものでもいいのではないか。絵を描くのが好きな子もいれば字を書くのが好きな子もいる。

粟原委員

相手を特定して、手紙を書くという方が分かりやすくいい。

事務局

人権の方で長くはないが「ありがとうメッセージ」を実施している。

粟原委員

絵手紙やカルタはどうか。今ハッシュタグでママの中で流行っているのが、「子どもなんとかカルタ」がある。テーマがあって、子供で苦労したことなどを自虐的に面白くかいている。

また、子どもの立場では男女共同といっても分かりにくい。今生きている生活がスタンダードとして成り立っている。両親をみて、「洗濯物をたたんでいるから男女共同参画」という判断は、私たちはできるが、子どもでは難しい。どちらかといえば、「女の子だからそれはやめておいてほしい」と言われたことで、やりたかったことを聞くのはどうか。例えば、お祭りで太鼓をたたきたかったのに女の子はバトン、と言っている地区もある。そういう聞き方の方が今の子どものジェンダーギャップはひろえるのではないか。

重松委員

今書かれている啓発活動は子どもを対象としているが、大人もまだまだ必要。大人の俳句を募集したコンクールが市にあってもいいのではないか。川柳風や俳句なら男性も女性も書けるし、そういうサークルも多いため応募数も増えるのではないか。

## 基本目標 あらゆる差別のない社会の実現

事務局

資料 28 ページの 64 番について、今後ますます高齢者人口が増えるという推計が出ている。その中で、老々介護となったときに、万が一女性ばかりが介護に携わっていてはそれも続かない。なにかお考えがあればお聞きしたい。

田中委員

介護にならないための形をとる、というのが一つある。介護になってからでは遅い。若い人も今のうちに、ジムやスイミングに行くほか、近所で 3~4 人でグループになって歩くなど、介護にならないようにもっていくことに 8 割~9 割重点を持っていった方がいい。杖をついて歩いていた人が、湯ったりで毎日歩く練習をした結果、杖をつかなくてもよくなった、という事例も聞いている。

斎藤委員

各公民館でサロンや、湯ったり勝山のおでかけサロンをもう少し増やし、介護にいかない年配の方が出る場をもっと増やせばいいのではないか。

事務局



サロンについては、資料 27 ページをご覧ください。

島田委員

独居老人の家庭訪問をエリア毎に分けて行っているが、お出かけサロンや地区サロンを紹介するが断られる。

斎藤委員

そういったものに、各自が気を付けて参加するようにしなくてはいけない。

松岡委員

健康寿命をのばして寝たきりにならないようにしようというのは流れで、歩いたり走ったりしている方もよく見かける。それでも寝たきりにはなる。そういったことをやってもやらなくても一回骨折したら寝たきりになってしまう。なにが大切なのかというと、私は家で倒れないようなバリアフリーのつくりをすることが一番大事だと思う。みんな自覚して頑張っているように思う。

西澤委員

一年に一度各地区で敬老の日があり、そういう集まりの時は同窓会のように楽しんで集まっている。そこでは保育園や小学校の子が出し物をして弁当を食べて帰るような内容。その中で、今年はこのポイントでいこう、という主張を「骨折すると危ないからこんなことに気を付けるといい」のように取り入れるとどうか。休憩時間等で参加者同士でよく話もしており、反響も大きい。改めてサロンに出てきてもらうのは難しいかもしれないが、敬老会は効果が高いのではないか。

松岡委員

40歳から介護保険を支払っているが、我々には何の情報もない。介護認定を受ければケアマネージャー等から色々情報をもらえるが、我々のころから中長期的な「骨が強くなる魚を食べましょう」「バリアフリーの家をはやめに作りましょう」といった情報を流してほしい。

重松委員

バリアフリーは、都合が悪くなってからつけた。そうすれば補助が出るのでつけやすい。

粟原委員

お出かけサロンや各種団体サロンの参加延べ人数が出ているが、男女の内訳はどうか。女性はいくつになっても情報交換できるため来るが、男性の方が高齢になると地区のコミュニティセンターや予防の講座に来ない。今とても独居世帯が増えていて、男性の方で孤立されている方も多いと思う。気を付けている男性は色々しているかもしれないが、こういったサロンは「女が行くものだから俺は行かない」という人もいる。「段々歩けなくなった姿を誰にも見られたくない」「まだ大丈夫」と理由をつけていかない。段々孤立してしまわないように、サポートできるといい。特別養護老人ホームに入っても、男性はコミ

ユニティに入れず、部屋に引きこもるといった事例も多い。男性の方も行きやすい工夫をするとよい。

島田委員

お出かけサロンは大体 20 人に 1 人が男性。地区サロンは老人会の会長が男性なので、「会長に頼まれたから」という理由で男性も結構きて、健康体操や体力測定も一緒にしていた。

松岡委員

鯖江にも高年大学があり、行ったら 7 割方が男。色々な講座をやってる。男性はどちらかといえば高年大学のようなものに行くので、そこでサロンをつくるとか、女性の場合はこっち、のように分けると効率があがるのではないかな。

事務局

男女比については確認する。

お出かけサロン参加延べ人数 2,367 人...男性：151 名、女性：2,216 名  
アンチエイジング講座は、全員が女性。

総合計画策定にあたって、健康寿命延伸について保健師にヒアリングした結果、50 代男性の運動不足解消とのことだった。

松岡委員

退職後の男性に向け、「健康寿命を伸ばすための退職後の生き方」退職後教育を行うとどうか。

## 基本目標 互いの尊厳を守る社会の実現

田中委員

私の地区には、壮年会など多くの団体が地区で活動している。しかし、最近では、こういった団体に所属しない人も増えてきており、地区との関わりが少なくなっている人が増加している。また青少年期では、中学を卒業して高校生になると、途端に地区と関わらなくなってしまう。こういった地区と関わらない人の受け皿づくりが必要ではないかな。

斎藤委員

DV の相談窓口を設置しているが、実際に相談があったケースはあるのか。

事務局

平成 30 年度で 2 件の相談があった。

斎藤委員

行政としては、DV をなくす方向で取り組んでいくしかない。相談しやすい環境づくりが大切。また、情報が漏れないよう管理も大事になってくる。

事務局

窓口は複数あり、県で行っている相談窓口のほか、警察でも相談を受け付けている。

土谷委員

相談する人が一番危惧するところは、情報の漏洩だと思う。相談しやすい体制も大事だが、安心して相談できる体制も大切だと思う。

事務局

市の情報漏洩への対応として、個人情報を取り扱う所属の情報共有、研修の徹底など、情報が漏洩しないよう徹底して取り組んでいる。

21 : 00 終了